

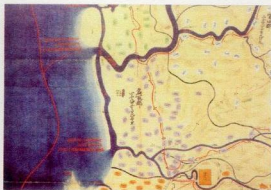
木曳堀（貞山堀）

木曳堀は、現在貞山堀と呼ばれている阿武隈川河口から松島湾までを結ぶ遼河の阿武隈川河口（岩沼市納屋）から名取川河口（関上）まで部分をかきしており、阿武隈川流域と仙台の城下町を結ぶ物資輸送路を確保する目的でされました。

開削年代は、慶長年代に川村孫兵衛重吉よって行われたと言われているが詳しいことは不明ではありません。

なお、正保年間（1644～48）の『奥州仙台領国絵図』に「内川」、宝暦年間（1751～64）の藩の触れに「内堀」とあることから、木曳堀の江戸時代の正式名称は「内川」又は「内堀」であったと見られます。

I-6-①



I-6-②



I-6-③-a

関上付近

I-6-③-a



I-6-③-b

下増田付近

I-6-③-b



I-6-③-c

下増田付近

I-6-③-c

◆ 奥州名所図会

（巻頭名所会・宮城県巻頭所説）

仙台大崎八幡神社の境内で個人であった丸亀藩測しが、仙台から松島、即ち、宮城までの名所旧蹟を記述したもので神祇が巻頭に記されており、当時の自然・建造物・行事・風俗などが伺える史料です。巻頭七巻を調査したらしいのですが、現在知られるのは巻頭内巻の1巻（松島藩邸）のみです。

I-7-①

◆ 増補行程記

（巻頭中巻公民館所蔵）

この行程記は、江戸から松島城下までの奥州街道を命懸けの旅水敷会が記したもので、巻頭4巻（1775）に完成しました。街道のほか、街道沿いの名所旧蹟・名物・寺社・町場（宿場）などの風景が記されています。特に町場と街道については詳細に記しており、それ以外の部分は簡略化されています。巻頭の2内巻は、比較的古く時々の様子や同定する資料と推定されます。

I-7-②